

### 第3期NBRP 第1回カイコ運営委員会議事録

期日:2012年11月9日 午後1時半から3時半

場所:丸ビルコンファレンススクエア (東京都千代田区丸の内)

出席者:前川秀彰(委員長、琉球大学)、上田均(岡山大学)、小林迪弘(名古屋大学)、蜷木理(東京農工大学)、藤原晴彦(東京大学)、小瀬川英一(生物研)、山崎由紀子(遺伝研)、佐藤清(NBRP 事務局長)、嶋田透(東京大学)、瀬筒秀樹(生物研)、伴野豊(九大)、(オブザーバー参加:平田裕美(NBRP 事務局)、藤井告(九大))

#### 1、NBRP 全体の動向(前川委員長)

単年度毎の応募となるゲノム情報等整備プログラム、基盤技術整備プログラムには平成24年度に応募したが不採択となった。基盤技術整備プログラムでは、カイコの凍結保存技術の確立に向け、凍結障害を大幅に低減させる可能性のある冷凍装置 CAS の導入を目指していた。ヒアリングで CAS の有効性を提示するための予備データを示すことが出来なかったことが反省点として残った。来年度に応募に向け、基盤研(つくば)に導入されている CAS を利用し、予備実験が進行中であることが報告された。次に、佐藤事務局長より、第2期から第3期への移行で入れ替わったリソース、ライフサイエンス課の人事異動、平成22年11月21日に開催される NBRP シンポジウム(東京)と、平成22年12月11日~14日にされる NBRP 展示(分子生物学会、福岡)に関する説明が行われた。

#### 2、カイコリソースの整備計画

九大(伴野)

卵巣、精子の凍結保存技術の現状と目標、バックアップ用の越年蚕種の保存の場としての風穴の有用性、蚕種の分譲先・分譲件数の推移等に関して、資料を使った具体的な説明が行われた。

東大(嶋田)

保存されている cDNA クローン、Fosmid クローン、冷凍庫が設置されている部屋にサーキュレータが導入されたこと、非常用電源として発電機が導入されたことに関する説明があった。また、MTA の締結が煩雑化してしまった例があったため、それに関して議論が行われた。

信大(梶浦)

課題管理者が欠席のため、九大伴野が代理で説明を行なった。カイコで確立されつつある凍結保存技術(卵巣、精子)を野蚕にも適用する計画等が報告された。

生物研(瀬筒)

大学の研究機関や企業からの要請で、年間で新規に150ぐらいの TG 系統が作出されている。また、国内外に TG 作製技術の提供を行っている。今後は、遺伝子導入カイコだけでなく、ZFN や TALEN を利用した遺伝子ノックアウト系統の増大が予想される。将来的には、系統の管理に凍結保存技術を導入することが不可欠である。新たな人工受精技術として、生物研の経費で顕微授精の開発に着手予定である。